

【現代風“組織一丸”マネジメント】シリーズ

笛を吹かずとも踊らせる方法とは…？

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【命令には従わないのが美德？】

“笛吹けど踊らず”と言われることがあります。笛を吹いてネズミを誘導し、街から追い出した童話をもじり、“命令しても従業員は動かなかった”という意味に用いられる言葉とも言われます。

ただ、経営者の皆様の中には、『命令絶対の警察内でさえ、テレビドラマの中では命令違反が美德化されているのだから、それを見て育った人が、命令に従うなどとは思わない方が良い』とさえ言われる方もおられるのです。

【命令に従えない時も増えた…】

ドラマの影響だけではなく、業務自体に様々な複雑な要因が絡み、“命令”を受けても、なかなか“実行”できないケースもあり得るでしょう。

否、むしろ複雑な状況下では“シンプル”になりがちな命令は、なかなか通用しなくなったと言わなければならないのです。

【どんどん命令のパワーが減退】

そんな中で“命令の軽視”が横行し、徐々に“命令自体を聞かない”文化が、従業員の中に浸透して行くとしても、確かに奇異なことではないかも知れません。

【組織を動かす原動力の変化】

では、組織を動かす際に、命令以外に効果的な方法があるのでしょうか。ある経営者は、ご自身の体験から、『“命令”ではなく“方針”が、想定以上に役員や従業員を突き動かした』と言われます。“方針”とは、一見あいまいなものですが、確かに、ドラマ中で命令違反をする刑事も“犯人を捕まえる”という“方針”には従っています。

【組織内人間関係が重視される中で…】

あるいは“方針”からもう一步踏み込み、組織内で特有の“共有ルール”を持つことも効果的だと言われます。“人間関係”が重要課題となっている昨今の情勢下では、人間関係を安定化させるルールが、大きな“組織的効果”を発揮しやすくなっていると考えられるからです。

【ご希望者には完全版購読をお勧めします！】

ただ、“方針”や“ルール”をドラマ的にではなく、実践としてイメージしていただくために、上記経営者の体験談をまとめた、簡潔なマネジメントレポートをご用意しました。

定期購読（有料）希望者には当レポートの完全版を毎月送ります。下記までご一報ください。



経営者が実現したい成果を得る体制を作ろうとするなら、何より“ヒト”を動かさなければなりません。逆に従業員や関係者が、成果に向けて効果的に“動き”出すなら、克服できないものは少ないでしょう。

ただ“ヒトを動かす”と言うと、何か特別なノウハウや仕組みを連想させがちです。しかし奇策の前に、組織マネジメントの“ある視点”に立ち戻るだけで達成されるものは、決して小さくないはずなのです。

少数精鋭でビジネスに取り組む皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所
983-0834 仙台市宮城野区松岡町 20-61

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！